

資源庁長官官房統計課 991

昭和十六年~同二十年

本邦鉦業の趨勢

資源廳長官官房統計課編

緒 言

戦争に依つて生じた鑛業統計の「空白」が、その儘に残されると云うことは基礎産業の重要資料の缺除を意味し、日本再建の爲にも許さるべきでない。此の意味で先ず昭和十四、十五年及び二十一年の「本邦鑛業の趨勢」を編纂刊行したのであるが、戦時中の昭和十六年から二十年に亙る「本邦鑛業の趨勢」の發刊が今日に至つたことは、諸制約上止むを得なかつたとは云え、當局者として其の責任を痛感する次第である。

惟うに、此の仕事が戦争時の過去に遡つて行われた調査であつた爲 資料の焼失、逸散又は鑛業權者の變更等、資料の蒐集に困難を極め、結果の検討に相當の期日を要した。以上の理由に依り過去の「本邦鑛業の趨勢」に比し、内容の充實を缺ける點は大方の御寛恕を乞う次第である。

本書は編纂の重點を生産に置き、鑛山事業の概況は資料蒐集の困難の爲削除した。併し重要鑛産額に就いては最善の努力を拂つたのであつて、關係各位の活用を期してやまない。

なお、本趨勢資料集定成に當り、各關係業界から寄せられた理解と協力並びに編纂に當り、終始協力を惜しまなかつた日本鑛業協會及び日本石炭協會に對し、深甚の謝意を表する次第である。

昭和 26 年 1 月

資源廳長官官房統計課長

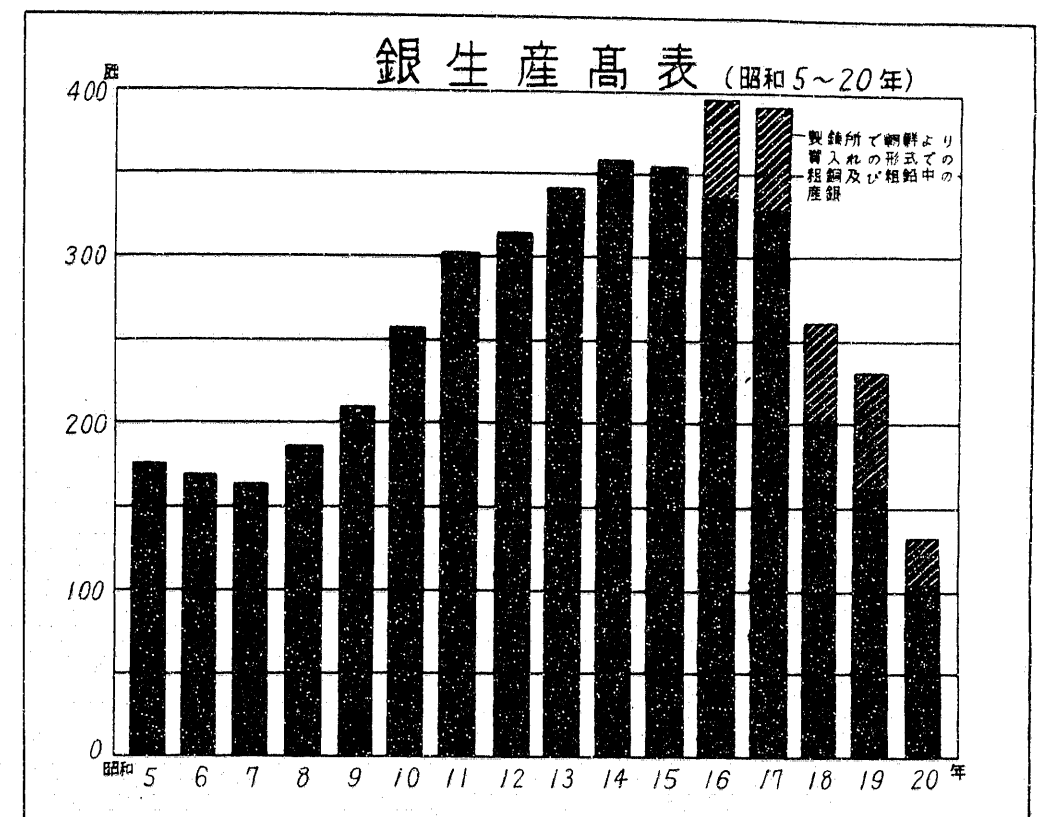
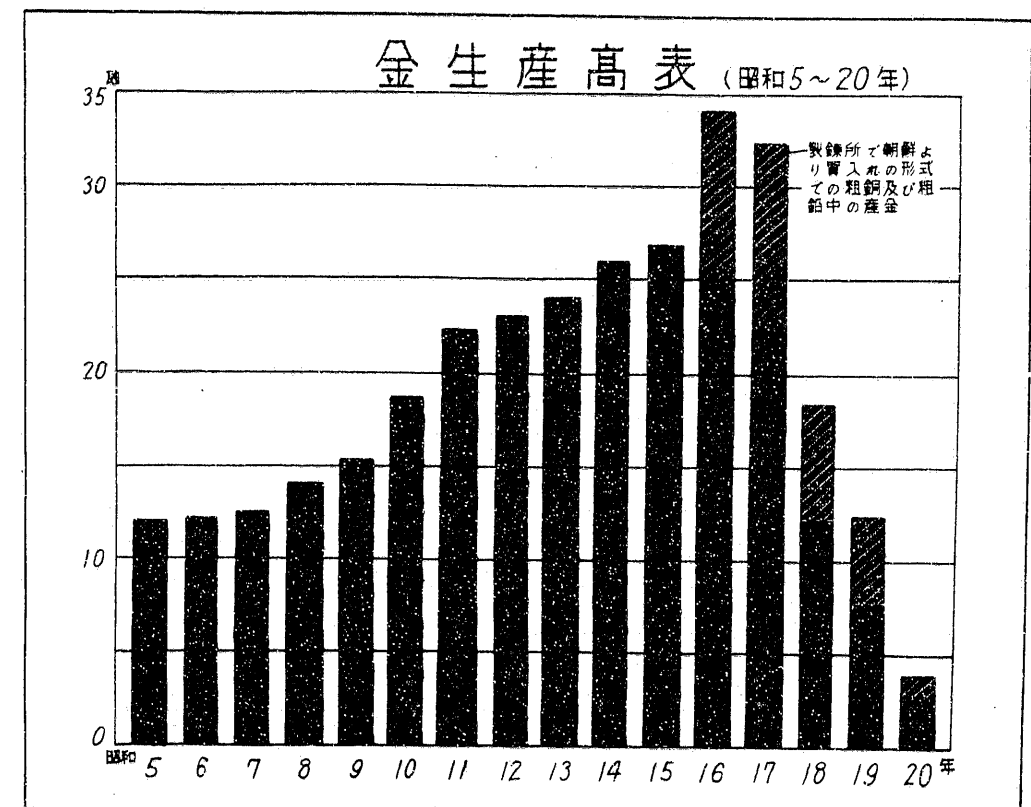
成 田 忍

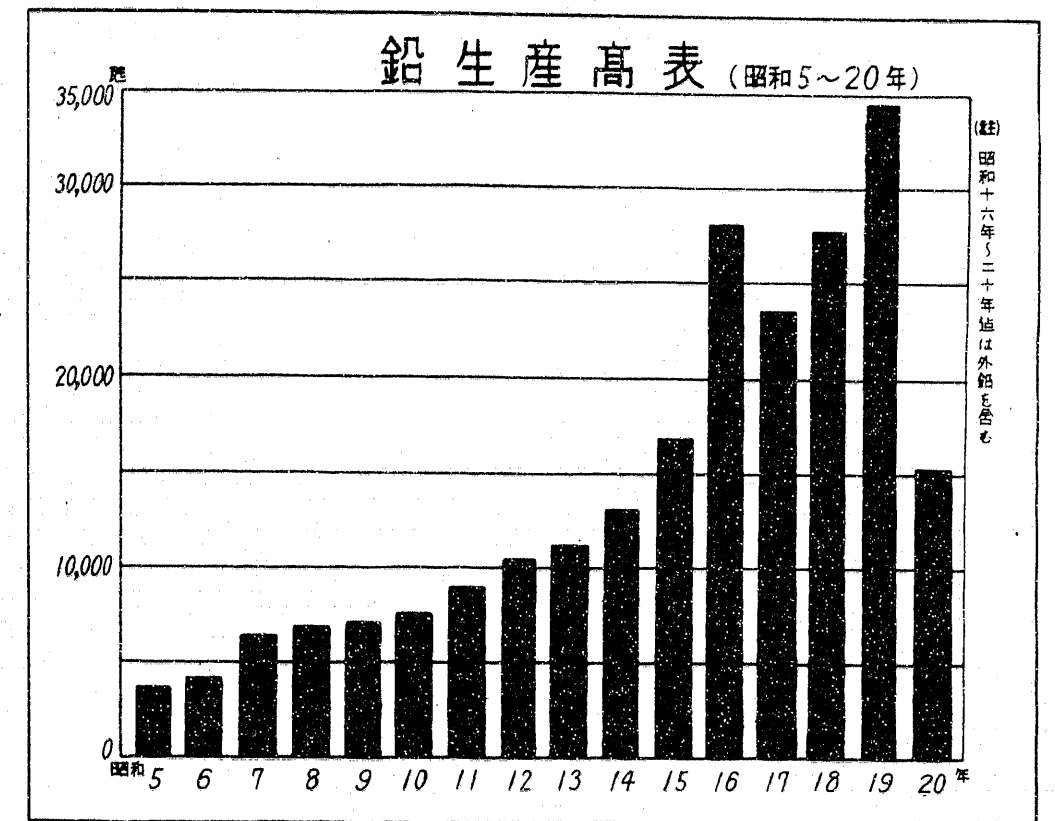
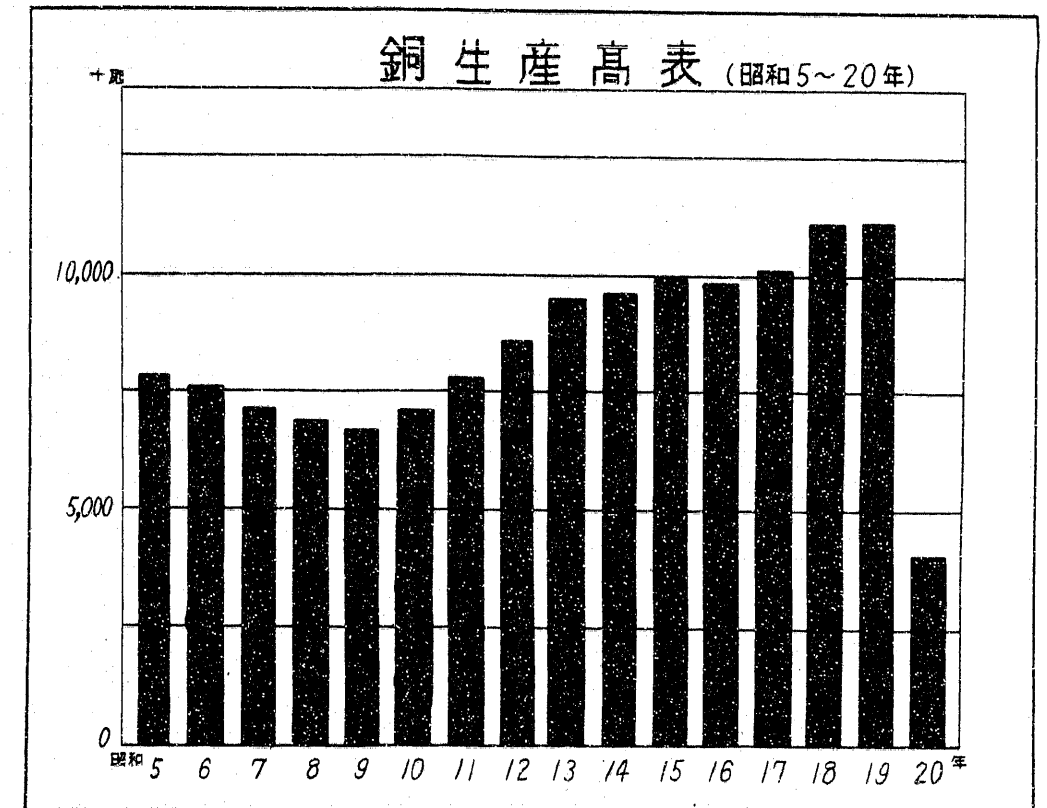
凡 例

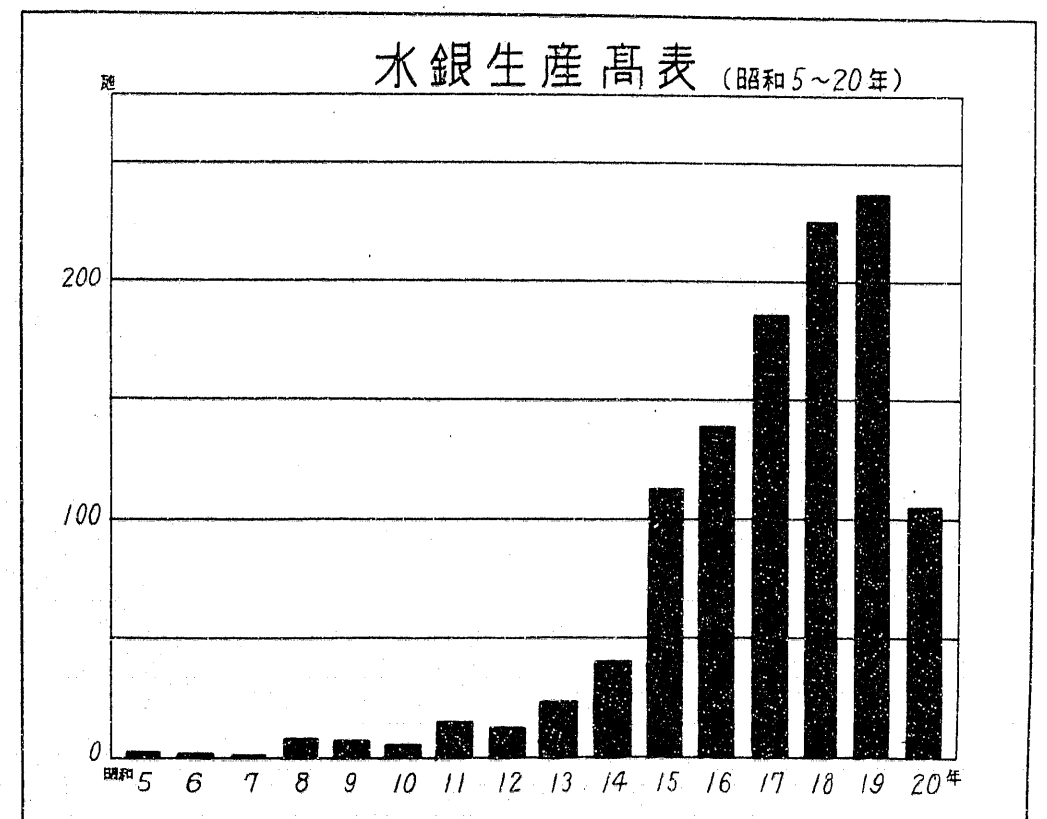
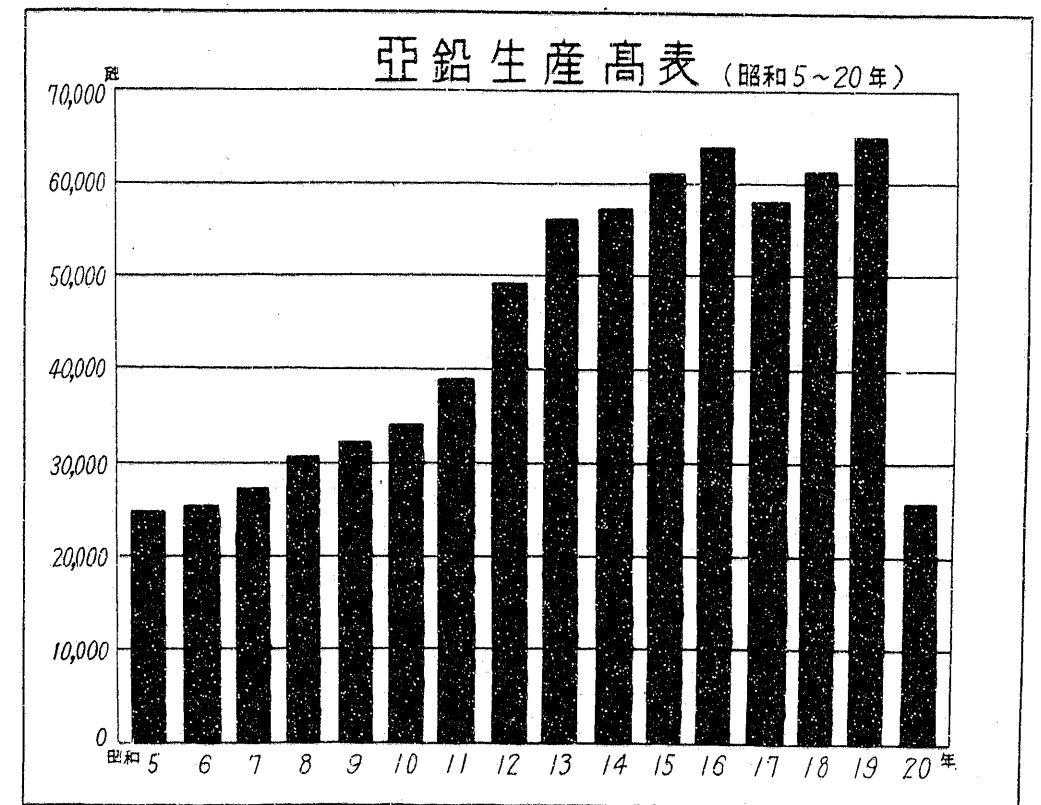
- 1 本書は主として、昭和十六—二十年中に於ける本邦鑛業の概況並に關係諸統計を輯録したものである。但し、此等の年は戦時に當り、資料中焼失及び散逸等あり、調査を不圓滑ならしめ完全に掲載し得られなかつた事は遺憾である。
- 2 輸出入に關する事項は大藏省の調査に依る。但し、石油の輸入額は鑛山局油政課の調査に依る。又世界鑛産額の數字はアメリカの Mineral Year Book より引用されたものである。
- 3 本書各表中事實ないもの又事實不詳であるものに付ては「—」、數が單位に満たないものに付ては「0」を附してある。
- 4 統計下の數量單位は總て「メートル」法に依る。但し、輸出入の場合は昭和16~18年迄「ポンド」單位に依る。

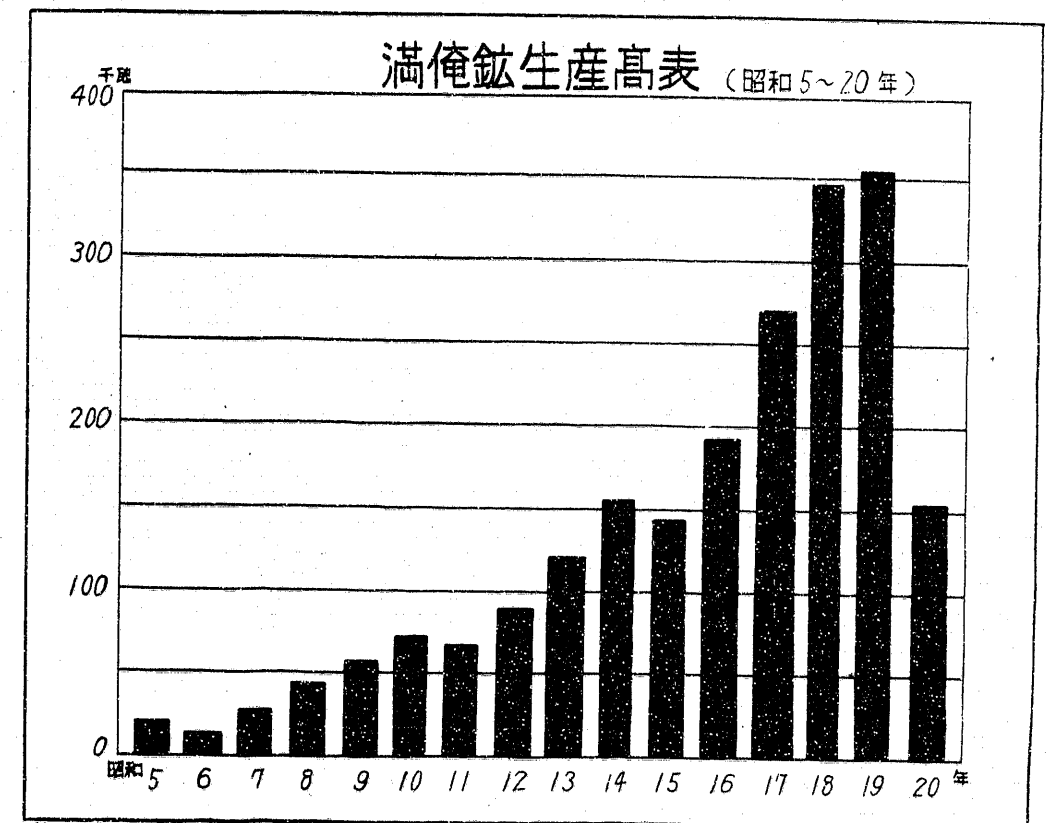
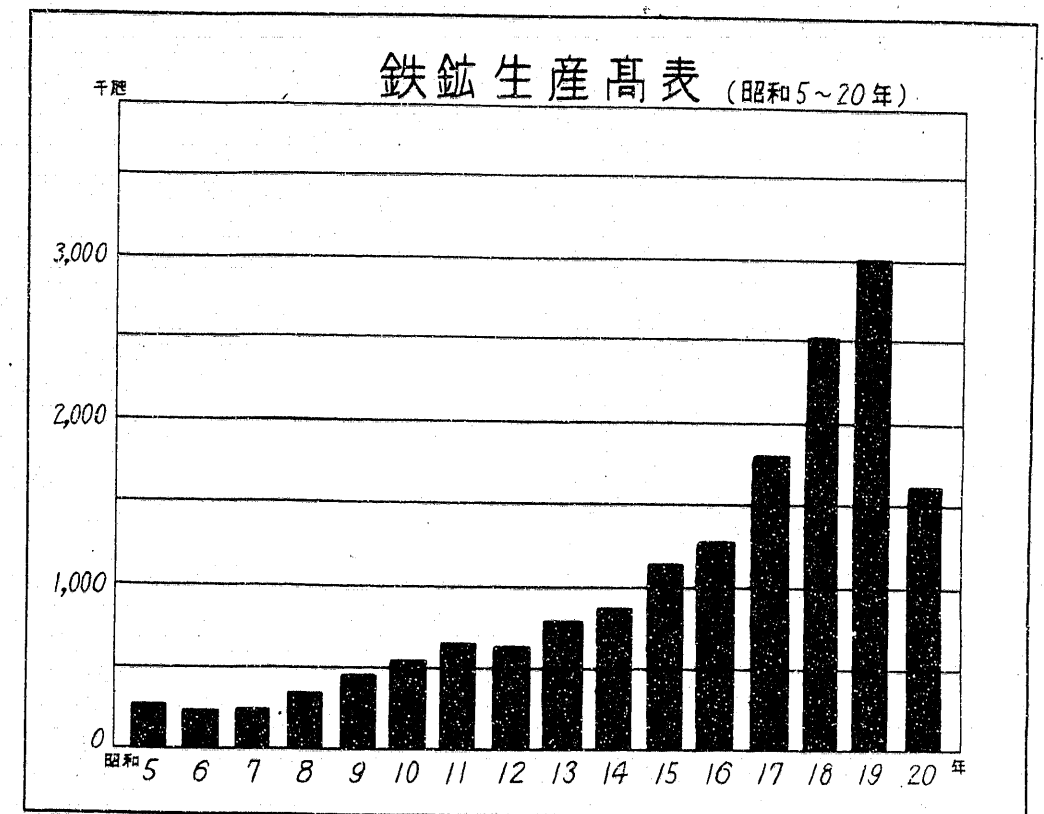
昭和十六年—二十年本邦鑛業の趨勢目次

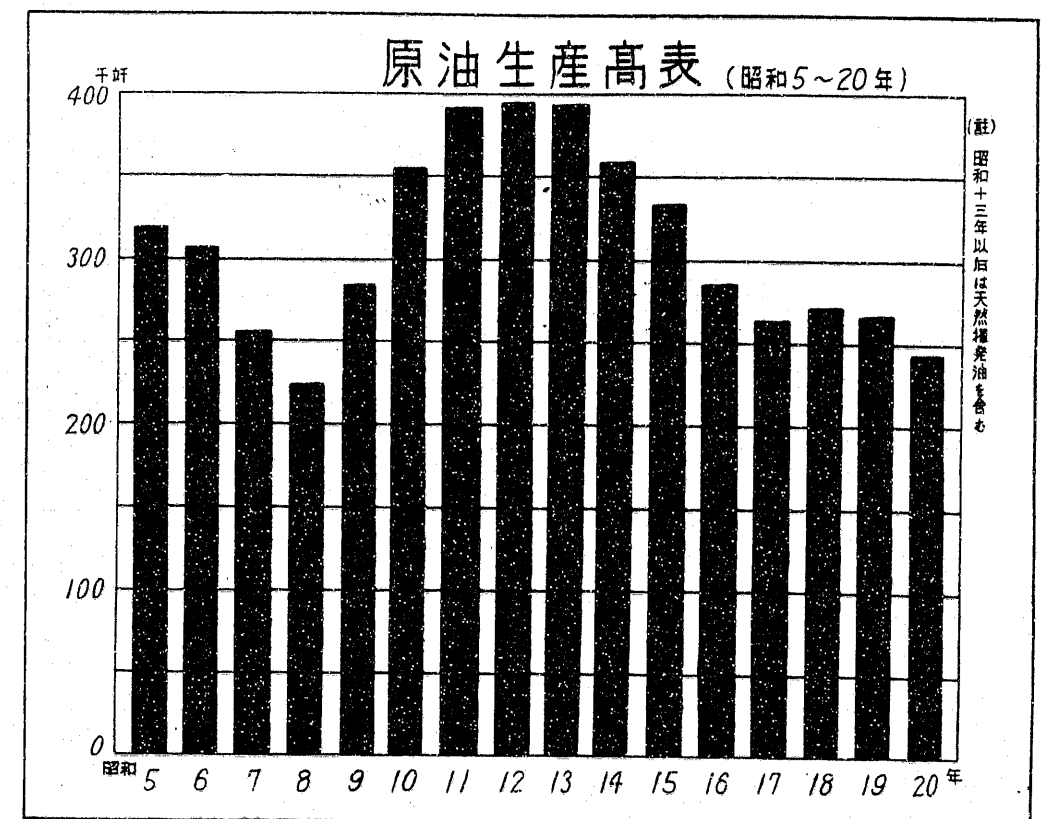
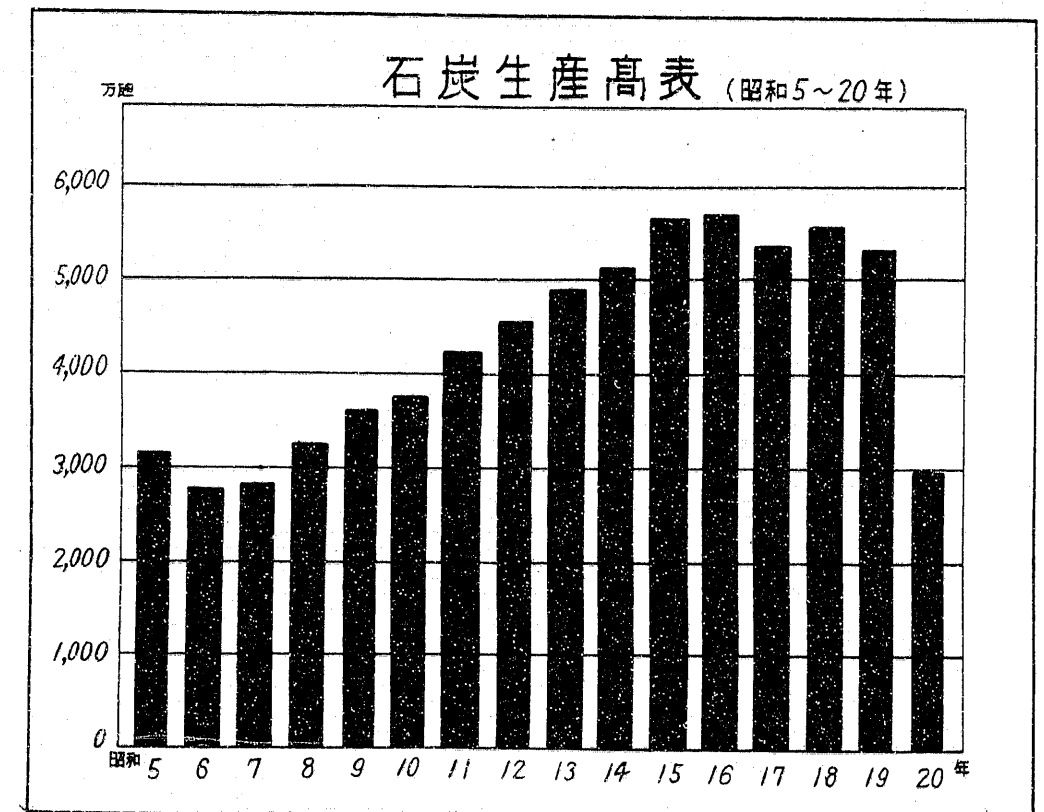
主要鑛産物圖表	4
總 說	9
I 鑛 産 額	10
(1) 粗 鑛 及 び 精 鑛	10
(2) 製 鍊 製 品	150
(3) 石 炭	162
(4) 石 油 及 び 石 油 製 品	168
(5) 砂 鑛	188
(6) 製 鐵	194
(7) 鑛 産 額 各 年 比 較	196
(8) 世 界 の 鑛 産 額	207
II 鑛 産 物 輸 出 入	224
(1) 鑛 産 物 輸 出	224
(2) 鑛 産 物 輸 入	226
(3) 主 要 鑛 産 物 輸 出 國 別	232
(4) 主 要 鑛 産 物 輸 入 國 別	236
III 鑛 産 物 の 價 格	240
III 事業所の主要設備（年末現在）	244
(1) 採 鑛 設 備	244
金 屬 山	244
石 炭 山	248
石 油 山	248
其 の 他 の 非 金 屬 山	251
(2) 選 鑛 場 及 び 選 炭 場	253
(3) 製 鍊 所	256
(4) 製 油 所	262
V 従 業 者（年末現在）	276
金 屬 山	276
石 炭 山	280
石 油 山	284
其 の 他 の 非 金 屬 山	286
VI 主要資材及び燃料動力使用量	288
金 屬 山	288
石 炭 山	290
石 油 山	292
其 の 他 の 非 金 屬 山	295
VII 災 害 死 傷 者 數	297
金 屬 山	297
石 炭 山	299
石 油 山	302
其 の 他 の 非 金 屬 山	306
VIII 鑛 業 出 願	309
IX 鑛 區	310











總 說

昭和 16 年より 20 年の間は、所謂戦争中に當り重點主義に依る重要鑛產物増産の強行、統制の強化となつた。即ち、石炭、鐵鋼、鑛山等各統制會の設立、重要鑛物指定、金鑛業整備（昭和 18 年 4 月）地下資源緊急開發、炭礦の統合、重要鑛物非常増産、特別價格報獎制度、補給金制度の措置等あり、一方應召による熟鍊勞務者の不足、資材の窮屈化による能率の低下、探鑛の不足、富鑛部の拔掘り、亂掘等の惡條件により、諸鑛山は荒廢の傾向を示すに至つたと云へよう。

主要鑛產物に就て見るに、金銀に於ては、昭和 16 年より激減の型を取り、昭和 18 年金鑛整備に依り、金は約半減の 12,089 匁に減じ、銀は約 3 分の 2 の 204,400 匁と減じた。

銅は重要視せられた爲、昭和 16 年より漸増し、昭和 18 年の 111,359 匁が最高となつている。（山關係に於ても昭和 18 年が最高で同様な傾向を示している）鉛、亞鉛に於ては何れも、昭和 17 年は昭和 16 年に比し減じ、昭和 18 年に再び増加し、昭和 19 年の鉛 34,597 匁（外鉛を含む）、亞鉛 64,647 匁を最高としている。（山關係に於ては何れも昭和 18 年を最高としている）

水銀は昭和 16 年より上昇線を辿り、昭和 19 年の 238,752 匁を最高とする。

鐵鑛に於ては、昭和 16 年より昭和 19 年迄上昇し、その產出 3,003,476 匁を最高とする。

滿俺鑛も鐵鑛と同様な傾向にして、昭和 19 年精鑛 356,255 匁を最高としている。

石炭については、昭和 16 年 56,471,897 匁を最高として、昭和 17 年は 53,540,432 匁に落ち、昭和 18 年 55,500,120 匁に回復せるも、昭和 19 年には 52,944,742 匁と下降している。

石油は原油について見るに、之も石炭と同様な傾向を辿り、昭和 16 年 287,195 匁を最高として、昭和 17 年 262,871 匁に減じ、昭和 18 年 271,248 匁と回復せるも、昭和 19 年は 267,054 匁に下降している。

附記：亞炭鑛業の場合は資料の蒐集不良の爲削除する。